

# ひかりのこ

年度末園便り

聖ミカエル幼稚園

2016年3月16日

## 「ご卒園・ご進級おめでとうございます」

年長さんはご卒園、年中少さんはご進級おめでとうございます。この1年間で、どの子も大きくなりました。自分のやりたいこと、困っていることを上手に伝えられるようになったお子さん、スキップが上手になったお子さん、年少さんの中には、おむつが取れて自分でおしっこができるようになったお子さんもいます。年長さんはどの子も縄跳びが上手になりました。中には、けんけん跳び、後ろ跳び、ばってん跳びなど、高度な技ができるようになったお子さんもいます。高度な技でなくても、自分なりに一歩ずつ進むことで、どの子も達成感を持ったことでしょう。給食にいつも苦戦していたお子さんも、年長さんになって「全部食べたよ。」と教えてくれました。

子どもが社会生活を送れるようになるには、たくさんのお子さんを身につけなくてはなりません。でも大人が教え込まなくても、子ども達は周りを見て自然にいろいろなことを身に着けていきます。あんなに小さかったこの子が、こんなに成長して…、としみじみ思いますし、お子さんの大きな成長を見届けることのできるこの私の立場にも、いつも感謝しております。

さあ、年長さんは、いよいよ旅立ちの時期です。聖ミカエル幼稚園での園生活はいかがだったでしょうか。たくさんお外で遊んで、たくさん絵本を読んでもらって、お父さん方、お母さん方、先生たち、教会の人たち、たくさんのお大人に愛されて育ちました。そして、何よりも心の中心に神様の存在がありました。

先日、幼稚園の礼拝に参加された女性がいます。聞くと、30数年前に聖ミカエル幼稚園を卒園されたとのこと。この度札幌を離れるので、その前に教会を訪ねてみようと思った、とのこと。ちょうどゴスペルサークルのお母さん方もお歌を歌ってくださる日でした。その方は、礼拝の中の子ども達の「忘れないで」の歌声を聞いて涙ぐみ、お母さん方の歌声にも涙ぐんでいました。どんなご事情があったかはわかりませんが、心のずっと奥底にあった神様への思いが沸きあがってきたのではないのでしょうか。

年長の子ども達は、今より大きな世界へと一歩踏み出します。小学校の先生方もとても丁寧にかかわってくださいますが、幼稚園とはまた違った生活になってくるでしょう。楽しいこともたくさんありますが、つらいこと、悲しいこと、納得いかないことも出てくるでしょう。どうぞそんな時は、手を合わせて、目をつぶ

って、神様に語りかけてください。

神さまの存在が、この教会の、この聖ミカエル幼稚園の存在や思い出が、子ども達や親御さんの心の片隅に残って、いつも皆さんを支えていますように。

幼稚園がふと恋しくなったら、どうぞ訪ねてきてください。いつでもお待ちしております。

園長 渡部良子

## キリスト教保育

3月27日、世界の教会は、移動祝日であるイースターを迎えます。

イースター（復活祭）は、その3日前の金曜日に十字架につけられ死んだイエス・キリストが、甦ったことを記念する、最大のお祭りです。いろいろな祝い方がありますが、有名なのはイースター・エッグでしょう。石のように動かず死んでいるかのように見える卵の中から、ひよこが固い殻を破る姿が、イエス様が思い墓石を破って出ることを彷彿とさせます。死は終わりではないことを胸に刻むのです。また、キリスト教国では、家の壁に蝶のデザインをほどこすことも多く行われます。固い殻に守られた、さなぎの幼虫が、想像もできないような美しい蝶になって自由にはばたき出る姿に、人々は「復活」の持つ力強さと、希望を見るのです。

4年間通ったお友だちも、1年間のお友だちも、聖ミカエル幼稚園で過ごした時間の中で、無駄な時間は一つもなかったはず。たとえつらいこと、悲しいことがあったとしても、それは旅立つ日のために必要な、大切な準備の出来事だったはず。そういう時を通して幼稚園という殻に守られて育った30のいのちが、輝かしい姿になって、新しい世界に旅立とうとしています。卒園することもちが、イエス様の復活の力に支えられて、外に向かって飛び立つ時を迎えています。

イエス様のことを知っているこどもたち、イエス様を信じているこどもたちは、これから何があっても大丈夫。今はまだ小さな羽かもしれませんが、やがて大きな羽をつけて戻って来てくれることを、心待ちにしています。いってらっしゃい。

「主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張って上る。」(イザヤ書40:31)

チャプレン 下澤 昌